

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：自由民主党新緑の会政務調査

2 調査報告概要

| | |
|-------------|---|
| 調査者 会派名等 | [会派名、調査者全員の氏名] 会派名：自由民主党 新緑の会 調査者：市川正末、杉原清仁、白井友基、桐原正仁、長澤健 |
| 調査内容 | 1 調査目的 本県における行政課題である、産業振興、ブランド振興、VR技術の観光活用、日本遺産の取り組みについて地方自治体行う各事業について視察、調査、意見交換を行い本県の施策に活かしていく。 2 調査テーマ ○産業振興とブランド振興 ○VR技術の観光活用 ○日本遺産の取り組み 3 調査期間 令和4年10月18日～令和4年10月19日 (1泊2日) 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 調査地：佐賀県唐津市、佐賀県佐賀市 5 その他 |

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>〔調査テーマ〕 産業振興とブランド振興</p> | <p>〔調査項目〕 からつ曳山展示場について 唐津市議会「UDトーク」について</p> <p>〔選定理由〕 唐津くんちの9番曳山は、木綿町が約160年前に作った、武田信玄の兜の曳山である。木綿町の人々は、旧塩山市と交流があり、信玄公まつりに来県し、武田神社、恵林寺を訪れている。信玄公まつりに木綿町の曳山をサプライズイベントとして持ってくることは可能なのか。また、武田信玄公を崇拝する地域が、縁もゆかりもない唐津市木綿町に実在し、地域の文化となっているのはなぜか、それらについて調査する。 唐津市議会では、聴覚障害者への議会傍聴の支援として、音声を自動的にモニターへ文字として表示できる「UDトーク」を導入している先進的事例を視察する。</p> |
| <p>〔調査テーマ〕 VR技術の観光活用</p> | <p>〔調査項目〕 タブレットで観光活用の取り組みについて</p> <p>〔選定理由〕 「バーチャル名護屋城」事業は全国的にも注目されている。タブレット端末だけで当時をリアルに感じることでできる体験を調査し、観光へとつなげる事例を学ぶために選定した。</p> |
| <p>〔調査テーマ〕 日本遺産の取り組み</p> | <p>〔調査項目〕 日本遺産の取り組み</p> <p>〔選定理由〕 県をまたぐ日本遺産である、佐賀と長崎の8市町が連携する「肥前やきもの圏」を、佐賀県としてどのように普及活動を行っているのか。「肥前窯業園」活性化推進協議会を立ち上げどのように観光振興を行っているのか、先進地視察を行う。</p> |

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

| 調査項目 | 都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由 |
|--|--|
| <p>からつ曳山展示場について 唐津市議会「UDトーク」について</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 唐津市新興町2881-1 曳山展示場 佐賀県唐津市場内1-1 唐津市議会事務局 [REDACTED]</p> <p>[選定理由] 唐津くんちの9番曳山は、木綿町が約160年前に作った、武田信玄の兜の曳山である。木綿町の人々は、旧塩山市と交流があり、信玄公まつりに来県し、武田神社、恵林寺に訪れている。信玄公まつりに木綿町の曳山をサプライズイベントとして持ってくることは可能なのか。また、武田信玄公を崇拝する地域が、縁もゆかりもない唐津市木綿町に実在し、地域の文化となっているのはなぜか、それらについて調査する。 唐津市議会では、聴覚障害者への議会傍聴の支援として、音声を手動的にモニターへ文字として表示できる「UDトーク」を導入している先進的事例を視察する。</p> |
| <p>VR タブレットで観光活用の取り組みについて</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 佐賀県鎮西町名護屋1931-3 佐賀県立名護屋城博物館 佐賀県城内1丁目1-45 佐賀県議会議事課 [REDACTED] 説明：佐賀県地域交流部文化課</p> <p>[選定理由] 破城した城跡がタブレットをかざすことでバーチャルで表示されるシステムを導入し、当時の名護屋城を再現している。甲府市舞鶴城の建設の賛否が起こっている中で、新たな舞鶴公園の活用策として視察研究を行う。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 日本遺産の取り組み | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 佐賀県城内1丁目1-45 佐賀県議会議事課 ██████████ 説明：佐賀県地域交流部文化課</p> <p>[選定理由] 県をまたぐ日本遺産である、佐賀と長崎の8市町が連携する「肥前やきもの圏」を、佐賀県としてどのように普及活動を行っているのか。「肥前窯業園」活性化推進協議会を立ち上げどのように観光振興を行っているのか、先進地視察を行う。</p> |
|-----------|--|

5 調査内容

○調査テーマ：(産業振興とブランド振興)

| | | | |
|--------|---|-----|--------|
| 調査項目 | からつ曳山展示場について 唐津市議会「UD トーク」について | | |
| 調査都市等 | 佐賀県唐津市 | 調査日 | 10月18日 |
| 調査結果概要 | <p>聴覚障害者への議会傍聴の支援として、音声を自動的にモニターへ文字として表示できる「UD トーク」を導入している先進的事例である唐津市議会を視察した。費用対効果が高いシステムであり、唐津市のように議会や行政における活用だけではなく、様々な場面で導入することにより、耳の不自由な方への支援につながる取り組みであると感じた。</p> <p>唐津市「唐津くんち」では、14の曳山がある。9番曳山が「武田信玄の兜」であり、木綿町がもっている。曳山は、神社に奉納されているもので、動く奉納品（狛犬、鳥居、灯籠と同じ）と考えられている。なぜ信玄公の兜かは、不明（現在158年経過）であるが、木綿町の人々は、誰でも武田節が歌え、宴会などの締めは、武田節を唄う習慣がある。木綿町の地域の方と現甲州市教育委員会（塩山市教育委員会）との交流があり、信玄公まつりにも定期的に訪れている。木綿町の唐津くんちは、全国的にも有名な秋季例大祭であり、武田信玄の兜の曳山を信玄公まつりで県民、観光客に披露する事で、信玄公まつりの更なる活性化につながるものと確信する。</p> | | |

○調査テーマ：(VR技術の観光活用)

| | | | |
|--------|---|-----|--------|
| 調査項目 | タブレットで観光活用の取り組みについて | | |
| 調査都市等 | 佐賀県唐津市 | 調査日 | 10月19日 |
| 調査結果概要 | <p>破綻した城跡がタブレットをかざすことでバーチャル表示されるシステムを導入し、当時の名護屋城を再現している。甲府市舞鶴場の建設の賛否が起こっている中で新たな舞鶴城公園の活用策として視察研究を行った。本県においても、官民様々な博物館、美術館等の展示施設が存在しており、県立美術館では、VRやメタバースなどの新しいデジタル技術を採用する取り組みが始動している。そのため、日常生活のみならず、展示物の世界においても、新たなデジタル技術を活用することにより様々な可能性が広がっていくことを痛感した。</p> | | |

○調査テーマ：(日本遺産の取り組み)

| | | | |
|--------|---|--|--|
| 調査項目 | 日本遺産の取り組み | | |
| 調査都市等 | 佐賀県唐津市 | | |
| 調査結果概要 | <p>県をまたぐ日本遺産である、佐賀と長崎の8市町が連携する「肥前やきもの圏」を、佐賀県としてどのように普及活動を行っているのか。「肥前窯業園」活性化推進協議会を立ち上げどのように観光振興を行っているのか、先進地視察を行った。</p> <p>唐津焼マップや周遊パスポート「ななばす」の発行など、観光客の周遊や滞在を促す取り組みを積極的に行うとともに、官民協働の体験型プログラムの提供など試行錯誤を続けている。</p> <p>本県においても、郡内織物や印伝などの地域特有の伝統産業が数多くあることから、伝統産業と観光産業とのコラボレーションについて参考となる取り組みが多々あり、地方自治体と民間が連携した観光客誘致など、学ぶべきものが多かった。</p> | | |

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

| | |
|------|---|
| 議員氏名 | 所感及び活用の考え方 |
| 市川正末 | <p>唐津市の市政概要の説明を受け、その後、市議会の議場見学を行った。唐津市の人口は11.7万人。山梨県でいうと甲府市に次ぐ規模の市であるが、唐津くんちを中心に、非常にまとまりのある市、非常に人と人との繋がりのある温かみのある市と感じた。</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <p>市議会議場では、UD トークという機械を設置し、障害者にも優しい議会を目指して、これからの共生社会を念頭に進んだ取り組みを行っていた。UD トークはすぐにでも山梨県や県内市町村でもと入れるべきではないか。</p> <p>唐津焼の窯元 70 者が集まり協同組合を組織し、全組合員で唐津焼の魅力を伝えるべく総合展示販売場を整備した。非常に高価な唐津焼であったが、若者の目を引くようなおしゃれな焼き物が多かったように思う。</p> <p>街全体、窯元全体で歴史文化を後世につないでいく好事例であった。</p> |
| <p>流石恭史</p> | <p>唐津市議会では、令和元年度から、議会中の議場での音声を瞬時に文字化し、傍聴席に設置されたモニターに映し出すシステムを導入している。議会開催時、議場における議長の進行や議員の発言等の音声を自動的に文字化し、モニター表示させることにより、聴覚障害者の議会傍聴を支援するもので、モニターに表示された大きな文字は非常に分かりやすかった。</p> <p>唐津市議会事務局にヒアリングしたところ、誤変換は 1 割から 2 割あるようだが、定型の用語等のデータを登録することにより精度を上げることができ、年間費用は 35 万円程度とのこと。</p> <p>費用対効果が高いシステムであり、唐津市のように議会や行政における活用だけでなく、様々な場面で導入することにより、耳の不自由な方への支援につながる取り組みであると感じた。</p> <p>「唐津くんち」の 14 の曳山のうち、9 番曳山の「武田信玄の兜」を管理する木綿町を視察。</p> <p>兜の製作は 158 年前のようで、なぜ武田信玄公の兜がデザインされたのか、地域の方々も経緯などは不明とのことであるが、宴会後には決まって武田節を歌う習わしがあり、本県から遠く離れたこの地域でも、本県と変わりなく信玄公が人々に愛されていることは非常に感慨深い。</p> <p>9 番曳山は、豪快に白いヤクの毛が施されており、人々が真っ先に思い浮かべる武田信玄公さながらの迫力であった。</p> <p>武田信玄公を愛する人々の話を直接聞くことにより、信玄公祭りを始め、本県に数多くある武田信玄公に関連する歴史的祭事や建造物、遺構などの限りない可能性を実感するとともに、今後もこれらの付加価値を高めていく必要性を感じた。</p> |

豊臣秀吉の朝鮮出兵の拠点として築かれた名護屋城跡に隣接した県立の博物館で、博物館の運営だけでなく、日韓交流などの活動も行っていることについて説明を受けた。

人を呼べる博物館として各所に工夫が見られ、膨大な富を集めた豊臣秀吉が建てた黄金の茶室を再現しており、観光客からの人気を博している様子であった。

注目すべきは、学術調査により明らかになった建物の遺構や出土品等から、仮想現実の世界で名護屋城を復元したバーチャル名護屋城。

朝鮮出兵の拠点にするために築城されたという唯一無二の存在に対して、過去の記録として史跡の保存整備を行いつつ、デジタル技術を駆使しながら、地域の文化資源の普及や魅力向上に寄与する新しい取り組みを行う博物館の姿勢が印象的であった。

本県においても、官民様々な博物館、美術館等の展示施設が存在しており、県立美術館では、VRやメタバースなどの新しいデジタル技術を採用する取り組みが始動している。

日常生活のみならず、展示物の世界においても、新たなデジタル技術を活用することにより様々な可能性が広がっていくことを痛感した。

約 430 年前に豊臣秀吉が朝鮮半島から焼き物の職人を連れてきたことにより、唐津焼として唐津で陶器の生産が始まった。

有田焼が主流になったことにより唐津焼が衰退した経緯があるが、400 年前に唐津焼が再興され、伝統的な技法を継承しながら、新たな取り組みにも挑戦していることが、展示物からよく理解できた。

唐津焼マップや周遊パスポート「ななばす」の発行など、観光客の周遊や滞在を促す取り組みを積極的に行うとともに、官民協働の体験型プログラムの提供など試行錯誤を続けている。

本県においても、郡内織物や印伝などの地域特有の伝統産業が数多くあることから、伝統産業と観光産業とのコラボレーションについて参考となる取り組みが多々あり、地方自治体と民間が連携した観光客誘致など、学ぶべきものが多かった。

豊臣秀吉の朝鮮出兵の拠点として築かれた名護屋城跡に隣接した県立の博物館で、博物館の運営だけでなく、日韓交流などの活動も行っていることについて説明を受けた。

| | |
|-------------|---|
| | <p>人を呼べる博物館として各所に工夫が見られ、膨大な富を集めた豊臣秀吉が建てた黄金の茶室を再現しており、観光客からの人気を博している様子であった。</p> |
| <p>杉原清仁</p> | <p>視察を行った唐津市議会では聴覚障害者への傍聴支援として、音声で自動でモニターに文字表示できる UD トーク（ユーディートーク）を採用、運用している。設備導入費は、初年度 35 万円ほど、二年目から 31 万円との説明を受けた。モニター、タブレット端末、wi-fi 環境があれば導入でき、市役所全体で使用できる契約を結んでおり議会以外でも使用を考えている。音声文字にする際の精度は 8 割から 9 割とのことであるが、昨今の AI 技術の目覚ましい進展により、今後は更に精度を上げていけると期待ができる。またテキストにも出力が可能とのことなので、議会事務局の議事録作成作業の省力化、議員同士での情報共有など多方面での利活用が望まれる。費用対効果の高いシステムであると強い関心を抱いた。</p> <p>唐津市「唐津くんち」は、ユネスコ無形文化遺産にも登録された 14 の曳山で盛大に行われる唐津神社の秋季例大祭である。これらは世界最大級の乾漆造の美術工芸品であり、その中でも 9 番曳山が「武田信玄の兜」で木綿町が管理している（現在、製作から 158 年が経過）。曳山は、神社に奉納されているもので、動く奉納品（狛犬、鳥居、灯籠と同じ）と考えられている。なぜ信玄公の兜と曳山としたかは、地域の方も不明とのことであったが、木綿町の住民の信玄公に対する尊敬、愛着の思いは我々山梨県人も驚くほどであった。木綿町の人々は誰でも武田節が歌え、宴会などの締めは武田節を皆で歌う習わしとなっている。木綿町の役員の方々はこの「武田信玄の兜」を信玄公祭りのパレードに参加させたいとの熱い想いを持っていた。そこで、昨年 12 月議会での代表質問の折、信玄公祭り と唐津くんちのコラボが出来ないか、という質問を行った。</p> <p>佐賀県立名護屋城博物館は、平成 5 年開館し史跡の保存整備併せて行うめずらしい博物館である。日本列島と朝鮮半島との交流史、特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」の保存整備、日韓の文化・学術交流の 3 つを活動の 3 本柱としている。なかでも平成 27 年から始めた、陣跡を高精細 CG で再現し体感できる「バーチャル名護屋城」事業は全国的にも注目されている。バーチャル名護屋城は、専用タブレット端末をもち、陣跡を散策しながら端末をかざすと端末上に 420 年前の状況が再</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>現され、さながらタイムトリップを行っている様な体験ができ来場者に好評を得ている。</p> <p>唐津焼を含む「日本磁器のふるさと 肥前」日本遺産の認定を受け、唐津焼振興室が平成 28 年に設置され、地域を上げて唐津焼の魅力発信を行っている。視察を行った唐津焼展示場では唐津焼組合員の作品を展示販売している。唐津には約 70 の窯元があり、伝統的な技法を継承する一方で、新たな挑戦を試みるなど時代の移り変わりの中で、着実な歩みを続けている。唐津焼の特徴は、すべて一人の職人が最後まで仕上げることにあり、同じ作品は一つと無い。また唐津観光協会では唐津焼観光MAPを作成し、観光客のため唐津焼の窯元を中心に市内の見どころを掲載し魅力発信を行っている。</p> |
| 白井友基 | <p>唐津市議会で唐津市政の概要の説明を受け、議場を見学した。モニターに音声を自動で文字化する UD トークが設置されていて、聴覚障害者への配慮がうかがえた。「唐津くんち」を中心に、歴史と文化を大切にし、すべての市民を大切にする風土が UD トークの設置につながっているのではないかと感じた。</p> <p>毎年 11 月に行われる唐津神社の秋季例大祭である「唐津くんち」では、14 台の曳山が町を巡行する。古いものでは江戸時代末期に制作されているとのことで、唐津市内の各町を象徴する美術工芸品として、曳山展示場に展示されている。木綿町が持つ 9 番曳山は「武田信玄公の兜」であるが、なぜ曳山に信玄公なのかは不明とのこと。唐津くんちの曳山行事は昭和 55 年には国指定重要無形民俗文化財に指定され、平成 28 年にはユネスコ無形文化遺産登録された。</p> <p>住民は各町の曳山にプライドをもっていて、それが祭りの盛り上がりにも関係していると思われる。</p> <p>16 世紀末に豊臣秀吉によって起こされた朝鮮半島への進出を目指した侵略戦争の舞台となったお城が肥前名護屋城であり、この戦いの出兵基地となった。全国から多くの諸大名が参集し陣を構え、城下町を含めかなり広大な遺跡である。</p> <p>全国的価値を持つ遺構が残存しており、保存整備事業やバーチャル名護屋城事業を実施し、次世代への交流や日韓学術交流に貢献している。日韓交流の地として栄えた歴史を後世につなぐ取り組みとして参考に</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>なった。</p> <p>唐津焼協同組合の組合員の作品を展示・販売している。16世紀末に朝鮮半島からの技術を導入して焼かれたのが唐津焼の始まりと言われている。「一楽、二萩、三唐津」と呼ばれるほど、多くの人々から愛されている。市内には約70の窯元があるが、街をあげて唐津焼の魅力を発信する拠点として展示販売場がある。</p> <p>隠れたスイーツの聖地である唐津市。カフェ文化と唐津焼を融合させ、若者にも伝統を紡ぐ取り組みであった。</p> <p>16世紀末に豊臣秀吉によって起こされた朝鮮半島への進出を目指した侵略戦争の舞台となったお城が肥前名護屋城であり、この戦いの出兵基地となった。全国から多くの諸大名が参集し陣を構え、城下町を含めかなり広大な遺跡である。</p> <p>全国的価値を持つ遺構が残存しており、保存整備事業やバーチャル名護屋城事業を実施し、次世代への交流や日韓学術交流に貢献している。日韓交流の地として栄えた歴史を後世につなぐ取り組みとして参考になった。</p> <p>唐津市を含む佐賀県の一部市町と長崎県の一部市町で構成する肥前窯業圏が日本遺産認定。圏域に人を呼び込む周遊パスポートの発行や窯ガチャ事業などを行い、魅力向上に努めている。</p> <p>甲府市には日本遺産認定された昇仙峡があるが、他の認定遺産に負けないような積極的な取り組みが必要と考える。観光に結び付けて収益を生み出す検討も待ったなしである。</p> |
| 桐原正仁 | <p>音声を自動でモニターに文字表示できるUDトーク（ユーディートーク）を採用し、聴覚障害者への傍聴支援を行っている。設備費は、初年度35万円ぐらい、二年目から31万円。モニター、タブレット端末、wifi環境があれば導入できる。市役所全体で使用できる契約にしているので、議会以外でも使用を考えている。全体では8割から9割の精度。テキストにも出力が可能。</p> <p>県議会では、手話通訳者を通して一般質問等の動画配信をしているが、UDトークの活用できれば、さらに議会の情報配信に寄与できるものとする。</p> <p>唐津市「唐津くんち」では、14の曳山がある。9番曳山が「武田信</p> |

玄の兜」で木綿町がもっている。曳山は、神社に奉納されているもので、動く奉納品（狛犬、鳥居、灯籠と同じ）と考えられている。なぜ信玄公の兜かは、不明（現在 158 年経過）木綿町の人々は、誰でも武田節が歌え、宴会などの締めは、武田節を唄う習慣がある。木綿町の地域の方と現甲州市教育委員会（塩山市教育委員会）との交流があり、信玄公まつりにも定期的に訪れている。木綿町の唐津くんちは、全国的にも有名な秋季例大祭であり、武田信玄の兜の曳山を信玄公まつりで県民、観光客に披露する事で、信玄公まつりのされなる活性化につながるものと確信する。

文禄慶長の役（1592 年-1598 年）では、豊臣秀吉が明征服をめざして挑戦に侵略したときの拠点。全国の大名が終結した場所。半径 3km の山々のすべて城があった。

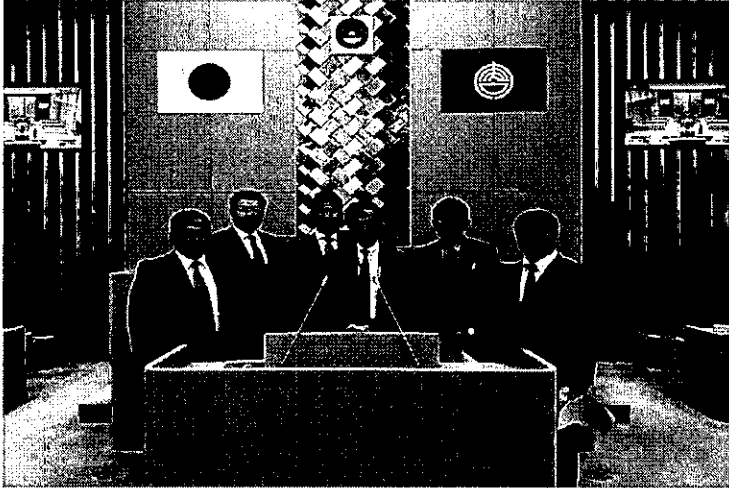
佐賀県立名護屋城博物館は、史跡の保存整備併せて行うめずらしい博物館。日本列島と朝鮮半島との交流史、特別史跡名護屋城跡・陣跡の保存整備、日韓の文化学术交流の 3 つが活動の柱。平成 5 年開館、来年 30 周年、平成 11 年には、博物館として全国初の韓国国際交流員を配置、平成 13 年には、日韓の交流を行う団体を支援する佐賀県日韓交流センターを設置、平成 15 年に、韓国国立晋州博物館との学术交流協定締結、平成 27 年には、陣跡をコンピューターグラフィックで再現したヴァーチャル名護屋城の運用、令和 2 年はまりの名護屋城をスタートその一環で黄金の茶室を復元展示。バーチャル名護屋城は、専用タブレット端末をもち、陣跡を散策しながら端末をかざすと端末上に 420 年前の状況が再現される。城跡の整備については、当時破城を行ったので、その状態で整備している。（石垣がいたるところ崩れている状態に整備している）

構成団体が、多くある中、取りまとめているのは「肥前窯業園」活性化推進協議会（佐賀県文化・スポーツ交流局文化課）で、周遊パスポート「ななばす」を発行し、まずは訪れていただく活動をしている。また焼き物の違いを知っていただき、情報発信していただくよう人材育成を行っている。対象者は、観光客が訪れる場所（飲食店、宿泊施設など）で働いている方へ研修を行っている。また、窯ガチャ（トイカプセル、本物の焼き物をカプセルの中に入れている。）この二つの事業収益で協議会が運営できるよう目指している。

| | |
|-------------|--|
| <p>長澤 健</p> | <p>信玄公の曳山がある木綿町を視察。「唐津くんち」は 14 の曳山があり、9 番曳山が「武田信玄の兜」で木綿町が持っている。曳山は、神社に奉納されているもので、動く奉納品（狛犬、鳥居、灯籠と同じ）と考えられている。木綿町が、なぜ信玄公の兜かは、不明（現在 158 年経過）。</p> <p>祭りが近かったので、子どもたちの御囃子の練習など、全町民が祭りの準備に取り組んでいた。また、木綿町の人々は、全町民が誰でも武田節が歌え、宴会などの締めは、武田節を歌う文化がある。山梨県人より信玄公愛のある地域ではないか。</p> <p>唐津焼組合員の作品を展示販売している。（王天家窯・大杉皿屋窯・岸岳窯三帰庵・鏡山窯・椎ノ峯窯・松円寺窯・杉谷窯異中庵・唐玄窯・帆柱窯・陶泉房窯・幸福陶房 瀬菜・中里太郎右衛陶房）</p> <p>唐津焼振興室は、唐津焼を含む「日本磁器のふるさと 肥前」日本遺産の認定を受け、平成 28 年に設置。唐津焼は約 430 年前に豊臣秀吉が朝鮮から職人を連れてきて、唐津で陶器の生産が始まり、佐賀県内に広まる中、有田で磁器ができ、伊万里で海外貿易がスタートし、波佐見焼、佐世保の三河内焼に波及していった。有田焼のルーツは、唐津焼である。有田焼が主流になってから唐津焼が衰退していった。現在の中里多呂衛門（14 代）の祖父中里無庵（12 代中里多呂衛門（1895-1985））が 400 年前の唐津焼（伝統技法を復活）を再現し人間国宝（1976）に認定されて、唐津焼の再興に成功させた。現在は約 70 の窯元があり、伝統的な技法を継承する一方で、新たな作品を試みながら、時代の移り変わりの中で、着実な歩みを遂げている。唐津焼の特徴は、すべて一人の職人（作家）が最後まで仕上げる。同じ作品は一つと無い。この唐津焼の窯元を訪ねる観光客のため、唐津焼MAPを作成している。また新日本プロレスとコラボして、動画配信を行っている。</p> |
|-------------|--|

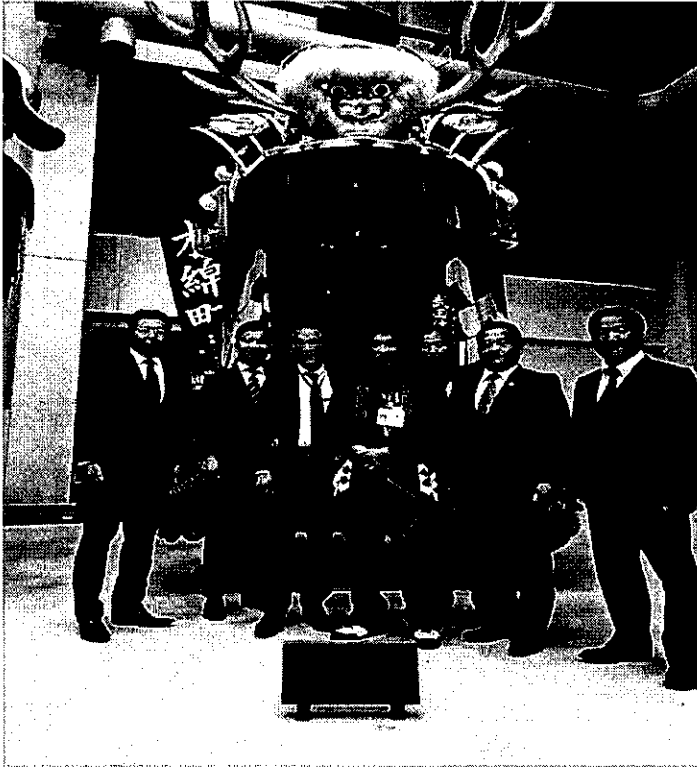
6 調査状況 (写真)

○令和4年10月18日 調査先 (唐津市議会)



「UD トーク」導入について調査

○令和4年10月18日 調査先 (曳山展示場)



唐津くんちの歴史や文化について調査

○令和4年10月19日（名護屋城博物館）



日本遺産の取り組みについて調査